

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	藤田 千春
通学キャンパス			
論文題目	小学校通常級に在籍する自閉症スペクトラム障害児をもつ母親へのソーシャルサポートの促進要因の検討		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 研究の概要</p> <p>本研究は、小学校通常級に在籍する自閉症スペクトラム障害児 (以下、ASD 児) をもつ母親へのソーシャルサポートを明らかにするとともに、ASD 児の母親の身近な第三者である学童をもつ母親の援助行動が促進される要因の検討を目的としている。以下の 2 つの研究から構成されている。</p> <p>研究 1 では、ASD 児の母親が就学前後に認知したソーシャルサポートを、小学校通常級に在籍する 1~4 年生の ASD 児の母親への半構成的面接調査から明らかにした。その結果、周囲の理解の不足という認識の持続、就学後の社会資源の減少が重要な課題として確認された。</p> <p>研究 2 では、学童をもつ母親による ASD 児の母親へのソーシャルサポートが促進する要因を、全国の公立小学校の 1~4 年に在籍する学童をもつ母親 2169 名を対象に質問紙調査から明らかにした。その結果、促進要因は ASD 児と家族への肯定的認知、ASD 児の対応を教えられる知識、手助けする役割の認知、ASD 児の母親に協力したいといった援助意思などであった。</p> <p>研究 1 と研究 2 から ASD 児の母親の身近にいる学童の母親には、ASD 児と母親の理解を促し、協力したいと認知させることが ASD 児の母親へのソーシャルサポート促進に重要であることの示唆を得た。</p> <p>上記は、本学の倫理委員会の承認を得て進められ、適正な倫理的配慮がなされていた。</p> <p>2013 年に障害者総合支援法が施行され、ASD 児が社会で共生していくために通常級において包括的な教育を行うシステムへの移行が進められている。本研究の新規性は、通常学級に通う ASD 児の母親が必要としているソーシャルサポートを明らかに、ASD 児の母親にとって身近な第三者である学童の母親の ASD 児の母親へのソーシャルサポート促進につながる要因を明らかにしたことである。その促進要因を ASD 児の母親への学童の母親からのソーシャルサポートが促進されるための教育・啓発方法に取り入れていく必要性の示唆を得た意義ある研究である。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>審査会は 2 回開催した。初回審査で、調査対象の設定理由および用いた方法の意図の説明の補足、調査に用いた事例が回答者から ASD 児と認知される前提となる根拠、使用している尺度や質問項目の信頼性と妥当性および数値評価スケールを用いたことが明確になるように加筆修正を求め、適切に修正された。</p> <p>3. 口頭試問</p> <p>口頭試問において適確に応答した。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (看護学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 世良 喜子</p> <p>副 査 斉藤 ひさ子</p> <p>副 査 相澤 和美</p>		